



にかさい

江戸川区立第二葛西小学校

令和7年9月1日発行

2学期が始まりました

校長 吉田 佳代

44 日間の長い夏休みが終わり、子どもたちの元気な声が校内に戻ってきました。今年の夏も厳しい暑さでしたが、7/26 おやじの会主催の「親子ディキャンプ」、8/2IPTA 主催の「漢字検定」、8/22 すくすくスクール主催の「すくすく縁日」と、子どもたちが夏を満喫する姿を見ることができました。子どもたちのために準備・運営を進めていただいた関係者の皆様に、心より感謝申し上げます。

さて、今日から2学期がスタートします。2学期は、各学年の遠足、社会科見学などの校外学習、11月は「展覧会」（1・3・5年・おおぞら学級）と「音楽会」（2・4・6年）の同時開催の行事（行事名は、子どもたちから案を募集したので、現在選定中です。）、6年生は陸上競技場での体育大会、日光移動教室と、盛り沢山です。2学期も引き続き、子どもたちの笑顔が溢れる学校を目指してまいります。ご理解とご協力をどうぞよろしくお願いいたします。

40年の節目を迎えた夏

今から40年前の1985年8月12日、日航ジャンボ機墜落事故で520名の多くの尊い命が亡くなりました。この犠牲者の中には、本校に通っていた当時3年生だった女兒、2年生だった男児の姉弟もいました。両親の実家を訪れるため、親族とともに当該機に搭乗し、帰らぬ人となりました。事故後、親族から「2人が生きた証に」と、本校へグランドピアノが寄贈され、調律や修理を重ねて、今でも音楽室で大切にに使わせていただいております。

私が着任した4月に、PTA顧問会（本校の歴代PTA会長の会）の須賀様から、この事故で本校の児童も犠牲になったこと、御巢鷹山への慰霊登山を今でも続けていることなどの話を伺い、40年の節目に何か追悼の催しができないかを考え、追悼コンサートを開催することになりました。お陰様で当日は、江戸川区長をはじめ、約30名の方々に足を運んでいただきました。コンサートでは、音楽教諭の保土田先生がピアノを、私がフルートを担当し、この事故で同じく亡くなられた坂本九さんの「上を向いて歩こう」「見上げてごらん 夜の星を」「校歌」を演奏しました。ピアノから響く音に、会場にいた全員で幼くして亡くなった児童に、思いを馳せるひと時となりました。



実は、このコンサートを行うにあたって、私はずっと「節目って何だろう。」と考えていました。今年は、日航機墜落事故から40年、戦後80年と大きな節目を迎えた年でもあります。この「節目の年」であっても、愛するご家族を失ったご遺族にとって、悲しみは決して絶えることなく、ただ静かに人生の一部として存在し続けているのではないかと痛感しています。

そう考えると、「節目」とは、誰かの悲しみが終わるのではなく、

を語り継ぐための大切な機会」なのかもしれません。

「命の尊さを語り継ぐ」ことは、難しいことではなく、日々の「ありがとう。」「ごめんね。」といった小さな言葉や、友達を大切に思う思いの中にあります。こうした体験の積み重ねが、命の尊さを深く根付かせていくのではないのでしょうか。

今後も子どもたち一人一人の個性を尊重し、共に生きる喜びを感じられるよう、心の教育を大切にしていきたいと思います。



【お知らせ】9月1日より、2年1組担任の 太田 翔 主任教諭 が育児休業に入ります。それに伴い、2年1組の担任として、区内の小松川小学校より、田村 るう 教諭が着任いたします。